

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	電磁気学2 (Electromagnetism2)	授業コード	C180051
担当教員名	川崎 敏之		
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	情報電子・電気工学コース 必修	単位数	2
履修上の注意または履修条件	電磁気学1と同様、本講義内容は身の回りで起こっていることを説明しているに過ぎません。まずは現象の意味をしっかりと理解してください。また、演習を必ず行うため、電卓等を持参してください。		
受講心得	講義は教科書中心に行うので事前に本に目を通しておいてください。授業で配るプリントの内容や参考文献も参照し、講義内容を理解してください。電磁気学1を受講後授業を受けることが望ましいです。		
教科書	「物理学の基礎3 電磁気学」 培風館)ハリディ・レスニック・ウォーカー 共著 野崎光昭(神戸大学教授 理博)監訳		
参考文献及び指定図書	金古善代治著「電磁気学の基礎と演習」(学献社) 藤、山崎共著「詳細 電磁気学演習」(共立出版) .A.サーウェイ著「科学者と技術者のための物理学Ⅲ 電磁気学」(学術図書出版社)		
関連科目	物理学, 線形代数1・2, 微分積分1・2, 電磁気学1		

授業の目的	電磁気学2では磁気現象を中心に電磁界を理解し、その理論的取り扱いに慣れることを目的とします。磁気現象の元となる電流の話から磁界・電磁界までをMaxwellの電磁方程式を目標として学習します。電磁気学1と同様、ベクトル解析の手法や座標系の使い方になれる事が重要です。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・磁界基礎 ・電流による磁界 ・電磁誘導 ・磁気回路 ・ガウスの法則 ・マクスウェルの方程式

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：磁界中で運動する電荷に働く力：磁界の強さと磁束密度 磁界中で力が発生する原理について電荷の運動に着目して説明します。また、磁界を表すのに重要な量である磁束、磁束密度、磁界の強さと磁束密度の関係などについてゆっくり説明します。磁界を説明するのに非常に重要な量なので、その意味をしっかりと理解してもらうことが重要です。	
第2週：磁界中の電流に働く力 電荷の運動は電流に直接関係します。つまり磁界中の電流により発生する力についても説明を加えます。また、このような力を表すために用いられる外積の扱い方と右ネジの法則について説明します。フレミングの右手の法則も外積と右ネジの法則で簡単に表すことができることをお話します。	
第3週：電流によって発生する磁場：ビオサバールの法則 磁場は電流によって発生します。この関係を示すビオサバールの法則の意味についてまず解説します。その扱い方と問題の解き方について説明します。ベクトルの扱いが少し複雑なので注意して聞いてください。	
第4週：電流によって発生する磁場：アンペールの法則 ビオサバールの法則同様、重要な法則であるアンペールの法則について説明します。この法則はコイルが作り出す磁束密度の式にも利用されています。このような磁束密度の求め方についてお話します。	
第5週：小テスト①とその解説 第1～4回までの範囲で小テストを行います。その後、解答・解説を行います。	
第6週：ファラデーの電磁誘導の法則とレンツの法則 この回では、時間的に変化する磁界によって生じる起電力の法則である電磁誘導の法則について説明します。起電力と磁界変動の関係についてよく理解してください。また、この式を変形し電界と磁界の関係式を導き出します。	
第7週：磁気回路 磁気現象を含んだ回路も電気回路同様に回路方程式を解くことによって求めることができます。このような磁気回路の扱い方について学びます。その取り扱い方法について学びます。	
第8週：インダクタンス コイルに関連し自己インダクタンスと相互インダクタンスの扱い方について学びます。電気回路の授業で説明するやり方とは違い、磁束という量に注目しながら自己、相互インダクタンスの式を導き出します。	

第9週：磁界のガウスの法則と磁気モーメント	
磁極は単独では存在できず、必ずN極とS極が対になって現れます。このことに着目し磁界におけるガウスの法則と電界におけるガウスの法則の式の違いについて、比較しながら説明します。また、磁気モーメントについても説明します。	
第10週：小テスト②とその解説	
第6～9回までの範囲で小テストを行います。その後、解答・解説を行います。	
第11週：磁化及び磁界の強さと静磁界の方程式	
磁性材料の特性とその利用法について説明します。特に磁化曲線と強磁性体の関係について述べます。磁界の強さ、磁束密度、透磁率の関係についてもお話します。さらに今まで話していなかった静磁界についても述べます。	
第12週：誘導磁場とアンペール・マクスウェルの法則	
アンペールの法則だけでは発生する磁束密度を正確に表すことはできません。この問題を解消するために考えられた変位電流の考え方について説明します。電束密度や電界の話も絡んでくるので前期の話も確認しておいてください。	
第13週：マクスウェルの方程式とその微分形の取り扱い	
電磁気学でもっとも重要な式であるマクスウェルの式についてまとめ、その微分形の意味について説明します。式の意味を、積分を含んだ数式から、説明できるようになるのが目的です。また、ガウスの法則の微分形の意味について説明します。	
第14週：マクスウェルの方程式と電磁波	
前回説明した式からマクスウェルの方程式の微分形と電磁波の関係について述べます。	
第15週：小テスト③とその解説	
第11～14回までの範囲で小テストを行います。その後、解答・解説を行います。	
第16週：期末試験	
なし	
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
備考	座学中心ですが、演習も取り入れ理解を深めます。学生間での教えあってください。

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	電磁気学1で学んだ基礎をさらに応用しようとする意欲がある。
【知識・理解】	特に磁界についての基礎を理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	周囲の仲間と相談しあって問題解決することができる。
【思考・判断・創造】	計算式を覚えるのではなく、本質的に理解することによって自ら考えて答えを導き出す力を身につける。

○成績評価基準(合計100点)		合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点		

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	受講態度が極めて悪い場合のみ減点することがあります。